

2025 年度

ウィリアムス神学館要覧



日本聖公会京都教区

ウィリアムス神学館

THE BISHOP WILLIAMS' THEOLOGICAL SEMINARY

2025年度 週間講義表

1学期 4月3日(木)～7月17日(木) / 2学期 9月2日(火)～12月11日(木) / 3学期 1月6日(火)～3月5日(木)
 (授業開始～終了) 1学期 4月8日(火)～6月24日(火) / 2学期 9月3日(水)～11月25日(火) / 3学期 1月7日(水)～2月17日(火)

	7:00～ 9:00		I 9:00～10:25	II 10:35～12:00	12:05～13:30	III 13:30～14:55	IV 15:15～16:40	17:30～	
火	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	聖餐式 (チャペル) (9:00-9:50)	※「説教セミナー」を 2-3学期に数回、 全学で行なう	昼の祈り ・ 昼食	教会史(岩城)-Ⓞ	旧約入門(勝村)-Ⓞ	夕の礼拝 ・ 夕食	
		2年				旧約神学(勝村)-Ⓞ	バイコンII(前川)-Ⓞ		
		3年					牧会と宣教(岩城)-		
水	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	教会音楽(辻)-Ⓞ	バイコンI(林/前川)-Ⓞ	嘆願 ・ 昼食		霊性の形成と変容-Ⓞ (全学年)	夕の礼拝 ・ 夕食	
		2年				聖公会論(林)-Ⓞ			
		3年				礼拝学II(林)-			日本基督教史(三輪)-
木	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	神学基礎演習(濱崎)-Ⓞ		昼の祈り ・ 昼食			夕の礼拝 ・ 夕食	
		2年		教理学I(岩城)-Ⓞ		ヘブライ語I(宮田)-Ⓞ			
		3年		教理学II(濱崎)-Ⓞ		神学特講(3学期/黒田)-			
金	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	ギリシア語I()-Ⓞ		嘆願 ・ 昼食	英書講読(黒田)-Ⓞ		夕の礼拝 ・ 夕食	
		2年	礼拝学I(越川)-Ⓞ	教理学特講(1学期/津田)-Ⓞ		臨床牧会訓練(13:10より)			
		3年		説教論(黒田)-		法憲法規(3学期/相原)-			
土	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	新約入門(前川)-Ⓞ		昼の祈り ・ 昼食	*教室：大教室-Ⓞ、中教室-Ⓞ、 小教室-Ⓞ、食堂-Ⓞ 都合により変更されることもあります。 *網かけ部分：今年度は開講されません。			
		2年	新約釈義(嶺重)-Ⓞ	ギリシア語II(前川)-Ⓞ					
		3年		ギリシア語III(前川)-					

《2025 年度年間授業・行事予定》

4 月			5 月			6 月					
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	火	入 寮 日		1	木	使徒聖ピリポ・聖ヤコブ日		1	日	復活節第7主日	㊟
2	水	9:30 ウ主教碑清掃		2	金			2	月		
3	木	11:00 始業礼拝		3	土		①	3	火		
4	金	オリエンテーション		4	日	復活節第3主日	㊟	4	水		
5	土		×	5	月			5	木		
6	日	大齋節第5主日 実習先教会礼拝出席	㊟	6	火			6	金		
7	月			7	水			7	土		①
8	火	1 学期授業開始		8	木			8	日	聖霊降臨日	㊟
9	水			9	金			9	月		
10	木			10	土		①	10	火		
11	金			11	日	復活節第4主日	㊟	11	水	使徒聖バルナバ日	
12	土	1 学期教会実習開始	①	12	月			12	木		
13	日	復活前主日	㊟	13	火			13	金		
14	月	復活前月曜日		14	水			14	土		①
15	火	復活前火曜日		15	木			15	日	三位一体主日 (聖霊降臨後第1主日)	㊟
16	水	復活前水曜日		16	金			16	月		
17	木	復活前木曜日		17	土		①	17	火		
18	金	聖金曜日(受苦日)		18	日	復活節第5主日	㊟	18	水		
19	土	聖土曜日	①	19	月			19	木		
20	日	復活日	㊟	20	火			20	金		
21	月	復活後月曜日		21	水			21	土		①
22	火	復活後火曜日		22	木			22	日	聖霊降臨後第2主日	㊟
23	水	復活後水曜日		23	金			23	月		
24	木	復活後木曜日		24	土		①	24	火	洗礼者聖ヨハネ誕生日 1 学期授業終了	
25	金	復活後金曜日		25	日	復活節第6主日	㊟	25	水		
26	土	復活後土曜日	×	26	月			26	木	試験準備・補講週	
27	日	復活節第2主日	㊟	27	火			27	金	※CPE あり	
28	月	福音記者聖マルコ日		28	水			28	土		×
29	火			29	木	昇天日		29	日	聖霊降臨後第3主日	㊟
30	水			30	金			30	月	使徒聖パウロ・ペテロ日	
				31	土		①				

7 月			8 月			9 月					
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	火			1	金			1	月	入 寮 日	
2	水			2	土			2	火	面 接 (成績関係)	
3	木	試 験 週		3	日	聖霊降臨後第 8 主日		3	水	2 学期授業開始	
4	金	※CPE あり		4	月			4	木		
5	土		①	5	火			5	金		
6	日	聖霊降臨後第 4 主日 1 学期教会実習終了	②	6	水	主イエス変容の日		6	土		
7	月			7	木			7	日	聖霊降臨後第 13 主日 他教派礼拝出席	
8	火			8	金			8	月		
9	水			9	土			9	火		
10	木	夏 期 実 習		10	日	聖霊降臨後第 9 主日		10	水		
11	金			11	月			11	木		
12	土			12	火			12	金		
13	日	聖霊降臨後第 5 主日		13	水			13	土		①
14	月			14	木			14	日	聖霊降臨後第 14 主日 2 学期教会実習開始	②
15	火	面接 (礼拝・生活・学び)		15	金	主の母聖マリヤ日		15	月		
16	水	面接予備日		16	土			16	火		
17	木	終 業 日		17	日	聖霊降臨後第 10 主日		17	水		
18	金			18	月			18	木		
19	土	出 寮 日		19	火			19	金		
20	日	聖霊降臨後第 6 主日		20	水			20	土		①
21	月			21	木	体験入学・入学案内・願書 VIA MEDIA 発送 (予定)		21	日	聖霊降臨後第 15 主日	②
22	火	マグダラの聖マリヤ日		22	金			22	月	福音記者使徒聖マタイ日	
23	水			23	土			23	火		
24	木	ニュース発送 (予定)		24	日	聖霊降臨後第 11 主日		24	水		
25	金	使徒聖ヤコブ日		25	月	使徒聖バルトロマイ日		25	木		
26	土			26	火			26	金		
27	日	聖霊降臨後第 7 主日		27	水			27	土		①
28	月			28	木			28	日	聖霊降臨後第 16 主日	②
29	火			29	金			29	月	聖ミカエル及び諸天使の日	
30	水			30	土			30	火		
31	木			31	日	聖霊降臨後第 12 主日					

10 月			11 月			12 月					
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	水			1	土	諸聖徒日	×	1	月	使徒聖アンデレ日 14:00 レクイエム	
2	木			2	日	聖霊降臨後第 21 主日	㊟	2	火		
3	金			3	月			3	水		
4	土		①	4	火			4	木	試 験 週	
5	日	聖霊降臨後第 17 主日	㊟	5	水			5	金	※CPE あり	
6	月			6	木			6	土		①
7	火			7	金			7	日	降臨節第 2 主日 2 学期教会実習終了	㊟
8	水	体験入学		8	土		①	8	月		
9	木			9	日	聖霊降臨後第 22 主日	㊟	9	火	面接 (礼拝・生活・学び)	
10	金			10	月			10	水	面接予備日	
11	土		①	11	火			11	木	終 業 日	
12	日	聖霊降臨後第 18 主日	㊟	12	水			12	金		
13	月	9:30 ウ主教碑清掃		13	木			13	土	出 寮 日	
14	火			14	金			14	日	降臨節第 3 主日	
15	水			15	土		①	15	月		
16	木			16	日	聖霊降臨後第 23 主日	㊟	16	火		
17	金			17	月			17	水		
18	土	福音記者聖ルカ日	①	18	火			18	木	ニュース放送 (予定)	
19	日	聖霊降臨後第 19 主日	㊟	19	水			19	金		
20	月			20	木			20	土		
21	火			21	金			21	日	降臨節第 4 主日	
22	水			22	土	(京都教区会)	×	22	月	使徒聖トマス日	
23	木			23	日	降臨節前主日	㊟	23	火		
24	金			24	月			24	水		
25	土		×	25	火	2 学期授業終了		25	木	降誕日	
26	日	聖霊降臨後第 20 主日	×	26	水			26	金	聖ステパノ日	
27	月			27	木	試験準備・補講週		27	土	福音記者使徒聖ヨハネ日	
28	火	使徒聖シモン・ユダの日		28	金	※CPE あり		28	日	降誕後第 1 主日	
29	水	リセス		29	土		×	29	月	聖なる幼子の日	
30	木			30	日	降臨節第 1 主日	㊟	30	火		
31	金							31	水		

1 月			2 月			3 月					
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	木	主イエス命名日		1	日	顕現後第4主日	㊟	1	日	大齋節第2主日 3学期教会実習終了	㊟
2	金			2	月	被献日		2	月		
3	土		×	3	火			3	火	面接(礼拝・生活・学び)	
4	日	降誕後第2主日	×	4	水	入学試験		4	水		
5	月	入寮日		5	木			5	木	終業日	
6	火	顕現日 面接(成績関係)		6	金			6	金		
7	水	3学期授業開始		7	土		①	7	土		
8	木			8	日	顕現後第5主日	㊟	8	日	大齋節第3主日	
9	金	法憲法規①		9	月			9	月		
10	土			10	火			10	火		
11	日	顕現後第1主日		11	水			11	水		
12	月			12	木			12	木		
13	火			13	金			13	金		
14	水			14	土		①	14	土		
15	木			15	日	大齋節前主日	㊟	15	日	大齋節第4主日	
16	金	入学願書〆切 法憲法規②		16	月			16	月		
17	土		①	17	火	3学期授業終了		17	火		
18	日	顕現後第2主日 3学期教会実習開始	㊟	18	水	大齋始日		18	水		
19	月			19	木	試験準備・補講週		19	木	聖ヨセフ日 ニュース発送(予定)	
20	火			20	金			20	金		
21	水			21	土		×	21	土		
22	木			22	日	大齋節第1主日	㊟	22	日	大齋節第5主日	
23	金	法憲法規③		23	月			23	月		
24	土		①	24	火	使徒聖マッテヤ日		24	火		
25	日	顕現後第3主日	㊟	25	水			25	水		
26	月	使徒聖パウロ回心日		26	木	試験週		26	木		
27	火			27	金			27	金		
28	水			28	土		①	28	土		
29	木							29	日	復活前主日	
30	金	法憲法規④						30	月		
31	土		①					31	火		

《ウィリアムス神学館の礼拝》

礼拝は、ウィリアムス神学館における神学教育を根底から支える最も大切な行為である。礼拝を意味する様々な言葉は、「仕える」とことに関連している。日々の礼拝生活を通して、神とこの世界に仕えることを体験的に学び、将来み心ならば、奉仕職としての職務を果たすための備えをする。祈祷書等のルブリックおよび下記の諸注意をよく理解し、十分な準備をして礼拝に臨むことが望まれる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
7:00	各自	9:00- 聖餐式	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り み言葉の礼拝(月1回)
12:05	各自	昼の祈り	嘆 願	昼の祈り	嘆 願	昼の祈り
17:30	各自	夕の礼拝／祈り	夕の礼拝／祈り	唱詠夕の礼拝	夕の礼拝／祈り	(教会実習のない日) 各自

* 毎月第1土曜：「み言葉の礼拝」

* 毎月最終土曜：朝の祈りの週であっても朝の礼拝とし、「共同懺悔」を行う。

* 聖餐式 前 夕：聖餐式の前夕には、「夕の礼拝／祈り」に引き続き、「聖餐準備の式」を行う。

「聖餐準備の式」は、1. または 2. と、3. 4. 5. のどれか一つを組み合わせるか、6. を単独で用いる。

I 神学館共同体礼拝の約束事

1. 週 日

- (1) 朝夕の礼拝と朝夕の祈りを隔週で用いる。
- (2) 朝の祈りの時、聖歌は第1日課の後で用いる。夕の祈りの時、「聖書（新約聖書）」および聖歌は朝の祈りに準ずる（第1日課、第2日課を朗読する）。
- (3) 詩編は座って唱える。詩編・賛歌などの「||」は少し間を開け、句読点は続けて唱える。詩編・賛歌は司式者側と日課朗読者側とで交互に唱える。司式者と会衆が交互に唱えてもよい。歌う場合には、句読点で少し伸ばし、「||」の間は息継ぎ程度にする。
- (4) 毎月1回、土曜日の朝は「み言葉の礼拝」を行う。これは主日・祝日に用いるものであるが、神学館ではこの日に用いる。
- (5) 聖職按手節、昇天前祈祷日は「守ってもよい」節・日である（祈祷書8-9頁）が、神学館の礼拝では該当する祈りを代祷の個所で祈る。（聖職按手節は聖職按手や聖職のみに限定されない、広く神の民全体の様々な職務のための節なので、ふさわしい祈りを諸祈祷、特祷その他より探す。また昇天前祈祷日には「産業と産物のため」の祈りを用いる。）
- (6) 小祝日の特祷を用いる場合は、「朝の礼拝／祈り」の代祷の箇所で行う。

2. 祝 日

- (1) 大祝日には火曜日を除き午前7時より聖餐式を行う。月曜日・休暇の日が大祝日に当たる場合は復活前月曜日および復活後月曜日を除き聖餐式を行わない。
- (2) 昼の祈りでは「祈りましょう」の後に、嘆願では104頁で、祝日の特祷を入れるようにする。
- (3) 夕の礼拝で祝日の聖語を用いる場合は「奉献唱、特別叙唱」（188頁以下）のルブリックに注意する。
- (4) 「前夕のある祝日」に注意する。

3. 一般的約束事

- (1) 現行祈祷書の作成精神に従い、ルブリックに精通し、いろいろな工夫、試みを行うようにする。
- (2) 祈祷書をよく読み、どこにどのような祈りがあるか知っておき、いかなる時にもふさわしい祈りを用いられるようにする。
- (3) ゴシック体の文章は、初めから唱える。

- (4) 祈祷書中の人称（兄弟、彼等）は、祈りの内容に応じてふさわしく読み替える。
- (5) 日課朗読者は、あらかじめ朗読する箇所を読んでおき、礼拝前には聖書の箇所を確認（しおりを挟む等）して、読み間違いのないように注意する。
- (6) 聖餐式のサーバーは前日に司式者に連絡を取り、祭服など必要事項を確認しておく。
- (7) 代祷は、必ず祈りを求める内容を具体的にアナウンスする（例：「今朝（夕）は、〇〇をおぼえて祈りましょう」）。代祷の「祈祷文」は「諸祈祷」（106頁以下）だけでなく、内容に応じて「特祷」その他祈祷書全体から選び、多少の字句の修正を行って用いる習慣をつける。
- (8) 世界諸教会の代祷は、まず聖公会名（管区名）等と言ってから教区名に移る。国内の場合は、教区名と言ってから教会名に移る。
- (9) 聖餐式中の代祷では、初めに（「執事」の呼びかけの後）代祷項目をあげる。または（ことに——）の部分に代祷項目（例：ことに〇〇聖公会△△教区）を具体的に入れる。
- (10) 聖餐式中の代祷で、（ことにわたしたちの主教——）の——の部分には、「ステパノ」と呼ぶ。
- (11) 礼拝中の個人の所作については、各自の判断に委ねられる。

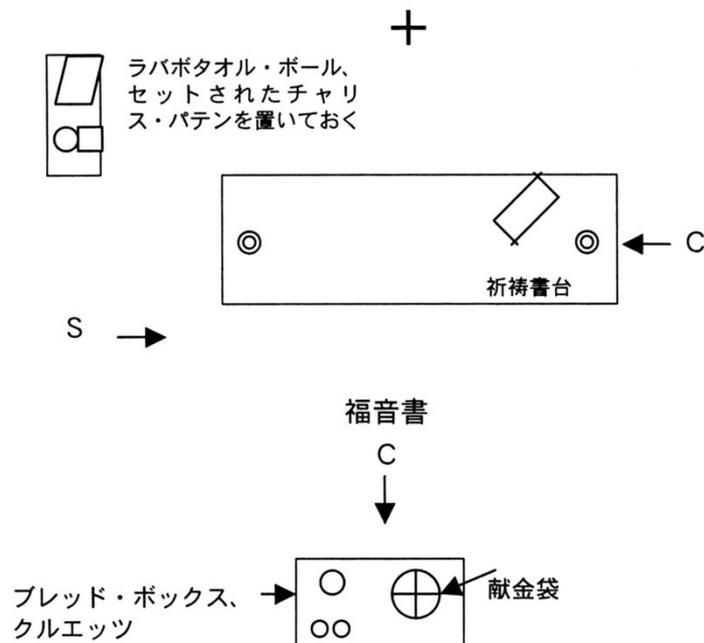
II 神学生個人の祈り

わたしたちは神学館共同体としての礼拝によって養われると同時に、神学生一人ひとりの個人の祈りによっても養われる。個人の祈りは共同体の営みを損なわない限り、尊重され、推奨される。そのためにチャペルを用いることができる。

III 神学館チャペルでの聖餐式の献げ方

◇参入よりみ言葉の部分まで

C : Celebrant（司式者） S : Server（侍者） L : Lector（聖書朗読者）



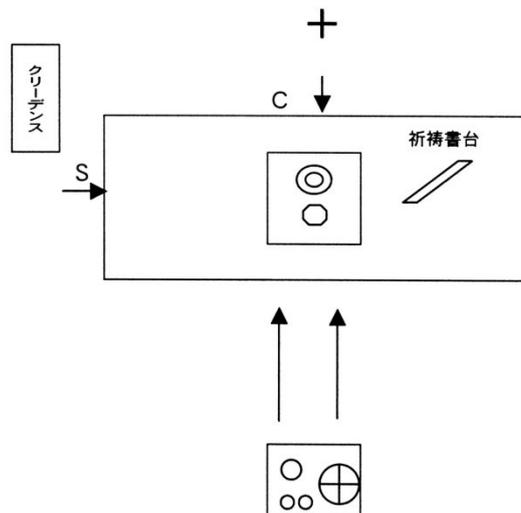
- (1) 入堂：聖卓の前で礼をし、左右に分かれる。
- (2) 旧約聖書朗読者は、会衆席より使徒書側へ行き、朗読する。
- (3) 「詩編」はSが先唱し、S側と司式者側とで交互に歌う。S側と会衆席とで交互に歌ってもよい。「栄光の唱」は用いない。詩編は黙想型の短いものを用いる。
- (4) 「詩編」の後、Sは使徒書を使徒書側で朗読する。
- (5) Cは、会衆席の中央で福音書を朗読する。

- (6) 代祷は会衆席より行う。
- (7) 平和の挨拶は全員で握手する。

◇聖餐の部分

【奉献準備】

- (1) Cが奉献唱を唱えた後、Sは聖歌をアナウンスする。
- (2) Sは、セットされたチャリス・パテンをCに渡す。
- (3) 代祷朗読者は、ブレッド・ボックス、クルエッツをSに渡す。
- (4) Sは、ブレッド・ボックス、クルエッツの盆をクリーデンス・テーブルに置く。
- (5) Sは、ブレッド・ボックスからパンを、またクルエッツをCへ。
- (6) 奉献聖歌最終節で、旧約聖書朗読者は信施（袋）をSに渡し、そのまま待つ。その時、代祷朗読者は旧約聖書朗読者と並んで立つ。奉献担当者は聖歌集を持参する。
- (7) Sは、信施をCに渡す。（または、そのまま捧げ持っている。）
- (8) 奉献の祈りの後、Cは洗手する。洗手の間に、全員聖卓を囲んで立つ。（祈祷書、聖歌集を持参）
- (9) Sは、Cの洗手の後、信施をクリーデンス・テーブルに置く。



【感謝聖別】

- (1) 全員、祭壇上に注目して式を続行する。
- (2) 感謝聖別文はⅠとⅡを隔週で用いる。Cはジェネフレクションはしない。また制定語の所作は自由。
- (3) Sは「サンクトゥス」「アニュス・デイ」を、Cは「記念唱」を先唱する。
- (4) 降臨節と大斎節には「近づきの祈り」も用いる。

【陪餐以降】

- (1) アブリューションの後、Sはセットされたチャリス・パテンをCより受け取り、クリーデンス・テーブル上に置く。
- (2) 派遣の唱和の後、全員聖卓に礼をし、自席に戻る。

※ 以上は、ウイリアムス神学館での約束事である。実習教会や出身教会（教区）にもそれぞれのリチュアルがあるので、それに従うこと。

《2025 年度 教 授 構 成》

教授氏名	所 属	担 当 講 義 () 内は本年度休講
はせがわきよすみ 長谷川清純	京都教区管理主教・理事長	
くろだ ゆたか 黒田 裕	京都教区司祭・館長	(ギリシャ語 I)、(英書講読)、(説教論)、聖書研究、夏期実習、(神学特講)
あいはら たろう 相原 太郎	中部教区司祭	(法憲法規特別講義)
いわき あきら 岩城 聰	大阪教区司祭	(教会史)、教理学 I、(牧会と宣教)
かつむら ひろや 勝村 弘也	神戸松蔭女子学院大 名誉教授	(旧約入門)、旧約神学、(旧約釈義)
こしかわ ひろひで 越川 弘英	同志社大名誉教授	礼拝学 I
つじ あやの 辻 彩乃	川口基督教会	教会音楽
つだ けんじ 津田 謙治	京都大教授	教理学特講
はまざき まさたか 濱崎 雅孝	関西学院大他、非常勤講師	(教理学 II)、(神学基礎演習)
はやし かずひろ 林 和広	神戸教区司祭	(礼拝学 II)、聖書研究、聖公会論、(聖書内容試験 I)
まえかわ ゆたか 前川 裕	関西学院大准教授	(新約入門)、ギリシャ語 II (III)、聖書内容試験 I II
みねしげ きよし 嶺重 淑	関西学院大教授	新約釈義、(新約神学)
みやた あきら 宮田 玲	同志社大他、非常勤講師	ヘブライ語 I
みわ ちしお 三輪 地塩	同志社大准教授	(日本キリスト教史)

職員と協カスタッフ

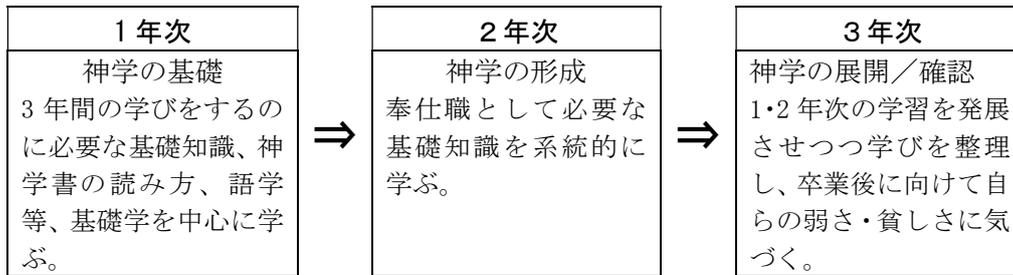
所 属	担 当 者
主 事 室	やまだ あつこ 山田 敦子 (室長・主事/ 京都聖ヨハネ教会) ふるもと 古本 みさ (司祭・主事/ スピリチュアル・ディレクター/ 奈良基督教会副牧師) わきた ゆうじ 脇田 祐治 (後援会会計/ 京都聖ヨハネ教会) まえだ のぶこ 前田 伸子 (協カスタッフ/ 大津聖マリア教会)
図 書 館	みやた あきら 宮田 玲 (同志社大学他、非常勤講師)
食 事 担 当	はね みえこ 羽根 美恵子 わだ のぶこ ふじもと みゆき 和田 信子 藤本 美由紀

《ウィリアムス神学館の教育課程》

1. 授業構成

学年	旧約学	新約学	教理学	教会史	礼拝学	牧会・宣教	基礎学/語学
1	旧約入門	新約入門	神学基礎演習 ・レポート指導 ・哲学入門 ・キリスト教倫理	教会史			神学基礎演習 英書講読 ギリシャ語Ⅰ バイコン
2	旧約神学 旧約釈義 (隔年)	新約神学 新約釈義 (隔年)	教理学Ⅰ 教理学特講 聖公会論		礼拝学Ⅰ	臨床牧会訓練	ギリシャ語Ⅱ バイコン (ラテン語Ⅰ) (ヘブライ語Ⅰ)
3			教理学Ⅱ	日本キリスト 教史	礼拝学Ⅱ	説教論 牧会と宣 法憲法特 神学法規 講義	(ラテン語Ⅱ) (ヘブライ語Ⅱ) (ギリシャ語Ⅲ)
全					教会 音楽	教会実習 夏期実講 特別講義	霊性の 形成と変容

※ゴシック体は必修科目、(明朝体)は選択科目



- ①3年間の教育課程は、奉仕職として立てられるのに必要と思われる必修科目と、語学関係の選択科目からなっている。神学するための基礎的な力をつけ、できる限り自分の言葉で語ることが重視される。
- ②全学年共通科目は必修で3年間を通して履修する。ことに教会実習はテキスト学習だけでは身につけることの出来ないコンテキスト学習を、宣教の第一線で働く牧師の生き方を通して身につける。
- ③神学生の資質・能力に併せて、必要に応じて個人指導(チュートリアル)を行うことがある。
- ④神学の学びは教室や実習だけでなく、寮における共同生活、交わり、礼拝を通して形成されることを重視する。
- ⑤学年は3学期制で構成され、毎年4月1日より始まり、翌年の3月31日に終る。
 1学期：4月上旬より7月中旬まで、
 2学期：9月第1月曜日より12月中旬まで、
 3学期：1月上旬より3月中旬まで
- ⑥授業日数は、オリエンテーション、夏期実習(海外もしくは遠隔地研修含む)、リセス、学期末面接期間を除く、年間30週程度を目処とする。

2. 学期末試験について

- ①定期試験を行う場合は原則的に各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。
- ②試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。
- ③レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。
- ④評価は以下の5段階で行い、D以上を合格とする。ただしA~Dについては「+」「-」で表示することもある。なお聖書内容試験に限り50点(E)以上で合格とする。

A (100~90点) B (89~80点) C (79~70点) D (69~60点) E (59点以下)

3. 神学生の区分

本館は全寮制であるので、学生の就学状態によって以下のように区分する。

- ①本科生：3年間在寮し、所定の全課程を履修する者。
- ②特別聴講生：3年間、寮には入らず在学し、所定の全課程を履修する者。
- ③教区派遣科目聴講生：1年以上在学し、当該教区と神学館の合意のもとに複数科目を履修する者。

4. 卒業認定について

本科生で、以下の条件を満たす者について卒業を認定し、卒業証書を授与する。

- ①所定の全課程に合格していること。
- ②3年間、寮生活をしていること。
- ③卒業小論文を提出していること。

5. 修了・修業認定について

以下の条件を満たす者について認定する。

- ①特別聴講生で、所定の全課程に合格した者は修了を認定し、修了証書を授与する。
- ②教区派遣科目聴講生で、当該教区との協議により指定された科目を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。
- ③本科生、特別聴講生で、所定の課程のうち9割を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。

6. 伝道師および信徒の奉仕職養成について

受講希望者および所属教区の意向を踏まえ、神学館との協議に基づいて柔軟にコースを編成する。

本館がかつて開講していた「伝道師養成コース」のカリキュラムを一例として以下に提示する。

①カリキュラム例

必修科目と選択必修科目からなる。選択必修科目は最低1科目を履修しなければならない。それ以外に本科生の科目を履修することも可能である。本科生と共通科目、このコース単独の科目がある。

必修科目	共通・通年	旧約入門、新約入門、礼拝学Ⅱ、教会音楽、聖書研究、教会実習、夏期実習
	単・前／後	前／礼拝学入門、後／牧会学概論と法憲法規
	単・1／2／3	1／教会問答、2／聖公会入門、3／奨励の意味と実践、
選択必修科目	共通・通年	文献講読、英書講読、教会史、教理学Ⅰ、ギリシャ語Ⅰ、聖書内容試験

②学期末試験について

- i) 定期試験は、各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。
- ii) 試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。
- iii) レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。
- iv) 評価は以下の5段階で行い、D以上を合格とする。ただしA～Dについては「+」「-」で表示することもある。なお、聖書内容試験は50点(E)以上で合格とする。

A (100～90点) B (89～80点) C (79～70点) D (69～60点) E (59点以下)

③修了認定について

所定の課程に合格した者は、伝道師養成課程修了証書、信徒の奉仕職養成課程修了証書等の授与をもって修了を認定する。

《2025 年度講義科目》

★ 必修科目 ★	★伝道師および信徒の奉仕職養成課程★
1 年 次	カリキュラムの一例
神学基礎演習 [濱崎] 休講 伝信選	旧 約 入 門
英 書 講 読 [黒田] 休講 伝信選	新 約 入 門
旧 約 入 門 [勝村] 休講	(前期) 礼 拝 学 入 門
新 約 入 門 [前川] 休講	(後期) 牧会学概論と法憲法規
教 会 史 [岩城] 休講 伝信選	礼 拝 学 II
ギリシャ語 I [] 休講	(2学期) 聖 公 会 入 門
聖書内容試験 I [林/前川] 休講 伝信選	(3学期) 奨励の意味と実践
2 年 次	★ 選 択 科 目 ★
教 理 学 I [岩城] 伝信選	※ 選択科目中の語学は在学中どれかを努めて履修することが望ましい。
教 理 学 特 講 [津田]	
聖 公 会 論 [林]	2 年 次
礼 拝 学 I [越川]	ヘブライ語 I [宮田]
ギリシャ語 II [前川]	ラテン語 I [] 休講
臨床牧会訓練 [愛隣館]	3 年 次
聖書内容試験 II [前川]	ギリシャ語 III [前川] 休講
2・3年次合同（隔年）	ヘブライ語 II [] 休講
旧 約 神 学 [勝村]	ラテン語 II [] 休講
旧 約 釈 義 [勝村] 休講	★ 全学年・伝信養成課程共通科目 ★
新 約 釈 義 [嶺重]	教 会 音 楽 [辻]
新 約 神 学 [嶺重] 休講	霊性の形成と変容 [黒田・林]
3 年 次	実践神学特講 [黒田] 休講
教 理 学 II [濱崎] 休講	教 会 実 習 [黒田]
礼 拝 学 II [林] 休講	★ その他 ★
説 教 論 [黒田] 休講	集中講義（ハラスメント防止関係）
牧 会 と 宣 教 [岩城] 休講	神学館講演会
日本キリスト教史 [三輪] 休講	特別研修
法憲法規特講 [相原] 休講	
神 学 特 講 [黒田] 休講	
卒 業 小 論 文	

《2025 年度学年別講義内容》

《 1 年 》

神学基礎演習 (濱崎雅孝)

本年度休講

英書講読 (黒田 裕)

本年度休講

旧約入門 (勝村 弘也)

本年度休講

新約入門 (前川 裕)

本年度休講

教会史 (岩城 聰)

本年度休講

ギリシャ語 I ()

本年度休講

聖書内容試験 I (林 和広/前川 裕)

本年度休講

《 2 年 》

旧約神学 -2・3年共通 (勝村 弘也)

I. 講義内容

クラウス・ヴェスターマンやG・フォン・ラートの旧約神学を手がかりとしながら、現代社会における諸問題と関連して、様々なテーマを扱う。

1 学期：

「祝福」「平和」「聖」「契約」「賛美」「愛」などの基本的な用語について学ぶ。

2 学期：

「啓示」「預言と法」などのテーマについて受講者とともに考えたい。

3 学期：

環境問題について、旧約からどのような課題と解決への糸口が見いだせるのかについて、リートケの著書や旧約の法を参照しながら考察する。

II. 講義形式・成績評価

講義と研究発表を併用する。授業での発表と学期末でのレポートをもとに評価する。

III. 参考文献

- * C・ヴェスターマン著『現代神学の基礎知識 旧約聖書』時田光彦訳、ヨルダン社、1984年
- * C・トレモンタン著『ヘブル思想の特質』西村俊昭訳、創文社、1963年
- * G・フォン・ラート著『旧約聖書神学』荒井章三訳、日本基督教団出版局、1980年
- * ドロテー・ゼレ著『働くこと愛すること 創造の神学』関正勝訳、日本基督教団出版局、1988年
- * ゲルハルト・リートケ著『生態学的破局とキリスト教』安田治夫訳、新教出版社、1989年
- * 勝村弘也著『今さら聞けない！？ キリスト教 旧約聖書編』教文館、2020年

旧約釈義 -2・3年共通 (勝村 弘也)

本年度休講（隔年開講）

新約釈義 -2・3年共通 (嶺重 淑)

I. 講義内容

新約釈義の基礎について学んでいく。最初に新約聖書の様々な研究方法について概観した後、様々な新約テキストを題材として取り上げ、新約釈義の具体的なプロセスについて実践的に学んでいく。1学期は福音書、2学期はパウロ書簡、3学期はその他のテキストを扱う予定。

II. 成績評価

課題レポート、発表の評価点等によって総合的に評価する。

III. テキスト

- * 日本基督教団出版局編『聖書学方法論』、日本基督教団出版局、1979年
- * 木幡藤子・青野太潮編『聖書学の方法と諸問題』（木田献一・荒井献監修、現代聖書学講座第2巻）、日本基督教団出版局、1996年
- * 樋口進・中野実監修『聖書学用語辞典』、日本基督教団出版局、2008年
- * 浅野淳博他『新約聖書解釈の手引き』、日本基督教団出版局、2016年

新約神学 -2・3年共通 (嶺重 淑)

本年度休講（隔年開講）

教理学 I (岩城 聡)

I. 講義内容

聖公会における教理学の方法論、基本的な考え方を分かち合い、その後、宗教改革以後、歴史的に形成されてきた教理学の基本問題について理解を深める。古代における教理形成のプロセスについては、別の講義に委ねることとする。

*主な項目:

- ①何のために教理学を学ぶのか(考え方・学の方法論)
テキストとコンテキスト/相関の方法(二極的方法)/doing theology/聖書と理性と伝統など
- ②聖公会の教会問答に基づく教理学の基礎的問題
使徒信経とニケヤ信経/三一論/聖書とは何か/旧約と新約の関係/祈りとは何か/サクラメント論

/使徒信経とニケヤ信経/サクラメント論/教会論/職制論

③改定祈祷書における『教会問答』の視点

④宗教改革以後の基本的課題

宗教改革の基本原則/イングランド教会三十九カ条/啓示の源泉/予定説・救済論など

II. 講義形式・成績評価

授業は基本的に講義とするが、適宜学生の研究発表を求める。また、②③の部分についてはテキストを読み進めながら分かち合いを行う。評価は、授業への参加度、各学期末の筆記試験(記述)あるいはレポートに基づいて行う。

III. テキスト・参考文献

①テキスト

* 祈祷書の『教会問答』

* 改定祈祷書『教会問答』

* 岩城聰『聖公会の教会問答-信仰の手引き』(2013, 聖公会出版)

* シャーリー・C・ガスリー著・桑原昭訳『一冊でわかる教理』一麦出版社、2003年

②参考文献

* 塚田理『聖公会の伝統を探る』(聖公会出版、2012)

* A・リチャードソン『キリスト教教理入門』

<参考図書>

* 西原廉太『聖公会の職制論-エキュメニカル対話の視点から』(聖公会出版、2014)

* A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』(教文館、2002)

* 佐藤敏夫『キリスト教神学概論』(新教出版社、1994)

* J.N.D. ケリー『初期キリスト教教理史』上下(一麦出版社、2010)

* M.ルター『キリスト者の自由』(岩波文庫)

* J・カルヴァン『キリスト教綱要 1536年版』(教文館)

教理学特講(1学期) (津田謙治)

I. 講義内容

使徒の活動以後に教理の形成に関わった教父たちの思想に着目し、主としてカルケドン公会議(451年)までの時代を概観する。古代哲学(プラトン主義やストア主義など)の受容や異端(グノーシスやアレイオス主義など)との論争の中で、神概念、キリスト論、贖罪論、三位一体論、教会論、秘跡(サクラメント)論などを、教父たちがどのように構築したかを分析する。

II. 成績評価

学期末のレポートと総合して評価する(学期間に数回小テストを行うことがある)。

III. テキスト・参考文献

* J.N.D. ケリー著『初期キリスト教教理史(上巻)・(下巻)』津田謙治訳、一麦出版社、2010年

* 小高毅編『原典 古代キリスト教思想史 1-3』教文館、1999-2001年

* 水垣渉・小高毅編『キリスト論論争史』日本キリスト教団出版局、2003年

聖公会論 (林和広)

I. 講義内容

聖公会の源流を探りつつ、その歴史的変遷及び特質を概観する。基本的に講義形式で行う。

II. 評価方法

各自の授業参加度、学期末の小レポートで評価する。

III. 【教科書】

*必要に応じてプリントを配布する。

【主な参考図書】

必ずしも購入する必要はない。適宜、コピー配布する。洋書についても適宜、コピー又は抄訳したものを配布する。

*岩城聰『今さら聞けない！？キリスト教—聖公会の歴史と教理編—』、教文館、2022年

*塚田理『イングランドの宗教』教文館、2004年

*西原廉太『聖公会が大切にしてきたもの』聖公会出版、2010年

*西原廉太『続・聖公会が大切にしてきたもの』聖公会出版、2012年

*M.チャップマン『聖公会物語』岩城聰監訳、かんよう出版、2013年

*D.ホームズ『アメリカ聖公会小史』、かんよう出版、2018年

*M.Chapman, S.Clarke, M.Percy, *The Oxford Handbook of Anglican Studies*, Oxford university Press, 2015.

*I..S.Markham, J.B.HawkinsIV, J.Terry and L.M.Steffensen(ed), *The Wiley-Blackwell Companion to the Anglican Communion*, Wiley-Blackwell, 2013.

*M.Ramsey, D.D.Coleman(ed), *The Anglican Sprit*, Seabury Classics,2004.

*R.W.Prichard, *A History of The Episcopal Chruch* (Third Revised Edition), Morehouse Publishing, 2014.

*S.Spencer, *Anglicanism* SCM Press, (2nd edition), 2021.

*S.Sykes, J.Booty,J.Knight, *The Study of Anglicanism(Revised Edition)*, SPCK, 1998.

—その他は適宜紹介する。

礼 拝 学 I (越川弘英)

I. 講義内容

キリスト教礼拝の本質、歴史、そして現代における様々な実践と課題について学ぶ。毎回の授業でレジュメを配布し、基本的に講義形式で行う。

II. 評価方法

授業への出席、学期末レポートによって評価する。

III. テキスト

『キリスト教礼拝・礼拝学事典』(今橋朗・竹内謙太郎・越川弘英 監修/日本基督教団出版局)

*参考文献については授業の中で詳しいリストを配布する。

ギリシャ語 II (前川 裕)

I. 講義内容

ギリシャ語Iで用いた文法書の残りの部分を学んだ後、聖書本文(適宜抜粋)を講読する。

II. 成績評価

文法については練習問題の理解程度、聖書本文については文法事項の理解程度に基づく。さらにいずれも授業への参加度を踏まえて評価する。

III. テキスト、参考文献

文法テキスト:

J.G.メイチェン著『新約聖書ギリシャ語原典入門』田辺滋訳、新生宣教団、2000年

新約聖書ギリシャ語テキスト:以下の2書のいずれでも良いが、UBS第5版の辞書つきのものを

推奨する。他の版については事前に教員に相談すること。

* *The Greek New Testament*, 5th edition, United Bible Societies, 2014

* *Novum Testamentum Graece*, Nestle-Aland, 28th, 2012

臨床牧会訓練 (愛隣館) (関谷 直人/三木 メイ)

I. 講義内容

同志社大学大学院神学研究科実践神学研究演習を履修する同志社大学神学部の大学院生と共同で行う。このプログラムは、将来牧師、チャプレン等、援助者として専門的知識と資質を求められる者のために高度な職業的訓練を行うことをその内容とする。的確、かつ真実な援助は決して自然発生的に実現するものではない。特に人間の危機的状況に対しての援助は状況判断の正確さ、求められている援助の内容の把握、必要な関連集団の理解、援助の方法の判断、そして深い精神的思慮に基づく他者への関心が必要とされる。その実現を理想として、このクラスは教育の場を「愛隣デイサービスセンター」の協力により施設内に置き、そこでの利用者の方々への援助表現としての訪問をめざしてすすめることとなる。スーパーバイザーの指導の下に非構造的な教育を基本とする。「牧会的」援助者は福祉の専門従事者ではないが、出会わせていただく利用者の方々の「心のニーズ」に対して施設の関係者との密接な協力関係を得て果たすべき重要な役割を担う。そのためにも、福祉施設である施設を良く理解すること、利用者の方々が置かれているさまざまな心理的状況にたいして繊細な心を持つこと、自分の心の動きを的確にとらえて必要な姿勢を組むことなど共に考え学ばなければならないことは多い。このクラスでは、学生がより良い自己の振り返りができ、本格的な病棟訪問の準備ができるようになることを目指し、主に座学を中心に対人関係訓練の基礎を学びつつ、グループワークも行なっており、スムーズに面談の実践へ移行できるように支援する。なお、施設で業務を担当している様々な分野の方々からのインプットも予定している。

II. 成績評価

グループの活性化に寄与できたかを含む授業への参加度、レポート、会話記録提出度等による。

III. テキスト・参考文献

【教科書】

* 関田寛雄他編『総説 実践神学』日本基督教団出版局、1989年

* 長谷川浩編『行動科学と医療—行動保健医療の実際・電話相談、HIV カウンセリング、死の臨床を例として—』弘文堂、1991年

* ジェームス・ヒルマン著、樋口和彦訳『内的世界への探求』創元社、1990年

* 三永恭平『こころを聴く』日本基督教団出版局、1986年

* ゴードン・C. ハンプリー『新・電話カウンセリング』一麦出版社、1997年

【参考文献】

* 工藤信夫著『援助者とカウンセリング』いのちのことば社、1992年

* D.アウグスバーガー著『親身に聞く』すぐ書房、1988年

* 三永恭平他『現代キリスト教カウンセリング、1-3巻』日本基督教団出版局、2002年

聖書内容試験Ⅱ (前川 裕)

I. 目標

新約聖書の残りの各書を熟読し、全体の概要を把握すること。1学期末まで。

II. 成績評価

試験の平均点と「聖書を読む」姿勢の総合評価を含めて、平均点 50 点以上を合格とする。

Ⅲ. テキスト

* 『聖書協会共同訳聖書』(日本聖書協会)を用いる。

《 3 年 》

旧約釈義 -2・3年共通 (勝村 弘也)

本年度休講(隔年開講)

旧約神学 -2・3年共通 (勝村 弘也)

2年の該当科目参照

新約釈義 -2・3年共通 (嶺重 淑)

2年の該当科目参照

新約神学 -2・3年共通 (嶺重 淑)

本年度休講(隔年開講)

教理学Ⅱ (濱崎 雅孝)

本年度休講

礼拝学Ⅱ (林 和広)

本年度休講

説教論 (黒田 裕)

本年度休講

牧会と宣教 (岩城 聰)

本年度休講

日本キリスト教史 (三輪地塩)

本年度休講

神学特講(3学期) (黒田 裕)

本年度休講

卒業小論文

本年度休講

《選 択 科 目》

ヘブライ語Ⅰ (宮田 玲)

I. 講義内容

旧約聖書を原典で読むための聖書ヘブライ語初級コース。聖書ヘブライ語の基本的な文法と語彙を学ぶ。

II. 成績評価

授業と課題への取り組み状況、達成度で評価する。

III. テキスト・参考文献

テキスト

*小脇光男 『聖書ヘブライ語文法 改訂版』 青山社 2021年

参考書

*谷内意咲 『今日からわかる聖書ヘブライ語』 ミルトス 2017年

文法書

*Gary D. Pratico and Miles V. Van Pelt, *Basics of Biblical Hebrew Grammar*. 3rd ed., Zondervan 2019

*C. L. Seow, *A Grammar for Biblical Hebrew*. 2nd ed., Abingdon Press 2013

辞書

*William Lee Holladay, *A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament*. 12th rev. ed., Brill 1997

初回に使用テキストおよび参考文献の説明をするので購入しておく必要はない。また授業ではプリントを配布する。

ヘブライ語Ⅱ ()

本年度休講

ギリシャ語Ⅲ (前川 裕)

本年度休講

ラテン語Ⅰ ()

本年度休講

ラテン語Ⅱ ()

本年度休講

《全 学 年 共 通》

教会音楽 (辻 彩乃)

I. 講義内容

毎日の礼拝で用いる聖歌やチャントを、伴奏がなくても正しく歌えるように練習します。

それと並行して読譜のための基礎的楽典やソルフェージュ、旧約聖書の時代から現代までのキリスト

教音楽史、聖歌の発展史、聖歌集に関する基礎知識などを学んでいきます。
また、礼拝における聖歌の選び方を実践的に学びます。

II. 成績評価

学期末の課題あるいは試験、授業への参加度で評価します。

III. テキスト・参考文献

- * 『日本聖公会聖歌集』 日本聖公会管区事務所、2006年（第2版が望ましい）
- * 宮崎光『聖公会の聖歌—いのちを奏でよ』 聖公会出版、2008年

霊性の形成と変容（黒田 裕）

このクラスは歴史的に形成されてきた霊的实践に関する先達の知恵に学び、それに基づいた祈りと黙想、分かち合いを通して、神との関係において自己の信仰、自分自身や自己と他者との関係、自己と社会・世界を省察し、観想的な奉仕者として養われていくことを目標とする。そのことはまた、日々の礼拝と学問的な学び、生活がより深い次元で総合されていくこと、ということでもある。今年度は特にイエズス会およびベネディクト会の霊性、日本の禅的实践を学びかつ実践することを通して、ボンヘッファーの『共に生きる生活』の背後にある修道的霊性を意識化しつつ、文脈的に聖公会祈祷書の霊性にふれてゆく。基本的には神学生が主体となりつつ、教員や他の参加者と協働的に作りあげていく時間としたい。

○基本テキスト

* Christine Valters Paintner and Lucy Wynkoop, *Lectio Divina: Contemplative Awakening and Awareness*, New York: Paulist Press, 2008. 抄訳を用意しているのでそれを参照してほしい。

○今年度参考文献

- * W.J.ウルフ編、西原廉太訳、『聖公会の中心』、聖公会出版、1995年
- * イグナティウス・ロヨラ『霊操』、ベネディクト会規、ボンヘッファー『共に生きる生活』も使用するが、どの版を用いるかについては受講者と相談の上決定していきたい。

教会実習（黒田 裕）

指導司祭の指導のもとに、派遣された教会における「神の宣教」（ミッシオ・デイ）に参加し、学び、教育され、将来の叙任された奉仕職（聖職）の働きに備える。神学生に具体的に期待されることは、「①奉仕職とは何か、どのような生き方なのかを、指導司祭の背中（生き方、在りよう）を見て感じる」「②信徒、求道者の方々との関わり方や関係のあり方を、指導司祭の背中（生き方、在りよう）を見て感じる」「③この世に仕えるものとしての教会のありようを、体験的に学ぶこと」である。神学生が実習教会の信徒の方から万が一「先生」と呼ばれても、そのことにむしろ違和感を持ち、自らが「仕える者」として召され、遣わされていることを体験的に学ぶことが期待されている。神学生には「教会実習ノート」が配布され、それに必要事項を毎週書き込み、提出する。1年生は土曜日の午後から日曜日の午後にかけて教会実習を行う。2・3年生は日曜日の朝から午後にかけて教会実習を行う。

夏期実習（黒田 裕）

宣教の現場の中で、人々との出会いを通して自らの生き方、信仰、自分自身に気づき、テキストからの学びとコンテキスト（文脈・状況）からの学びの統合を試みる。3年に1回、海外もしくは遠隔地研修を行なう。

《伝道師および信徒の奉仕職養成について》

*受講希望者および所属教区の意向を踏まえ、神学館との協議に基づいて柔軟にコースを編成する。

＜今年度休講の科目＞

- 【1年次】 全科目
- 【2年次】 旧約釈義、新約神学
- 【2・3年次】 旧約釈義、新約神学
- 【3年次】 全科目
- 【選択科目】 ラテン語Ⅰ、ラテン語Ⅱ、ギリシャ語Ⅲ、ヘブライ語Ⅱ
- 【伝・信奉養】 ※受講希望がある場合に適宜開講する。

《図書館の利用の仕方》

今年度も引き続き、図書の整理を精力的に行う。分かりにくいことは司書及び主事に尋ねること。貸し出し方法の変更があるかもしれないが、その都度指示に従うこと。

◎貸し出しの方法（原則的な事柄）

- (1) 机上の「貸し出し記入表」に、分類コード・番号、書名、年月日、氏名を記入する。
- (2) 貸し出し期間は、借りた日より2週間。期日厳守。
- (3) 聖書、事典、辞典、注解書は「禁帯出」である。教室で使用の場合、またコピーする場合、終わり次第直ちに「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。
- (4) 図書室での勉強、読書、調べものは、閲覧室の代わりに授業のないときの「教室」を用いる。
- (5) 借りたい本が書架にない場合は、本は「貸し出し記入表」を見、借りている人を探す。
- (6) 学期末にはすべて返却する。休暇中に貸し出しを希望する場合には、館長の許可を得ること。
- (7) 返却は、「貸し出し記入表」に返却月日を記入の上、「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。
その際、ラベルの1段目の大文字アルファベット、2段目の数字が書架を示しているので参考にすること。
- (8) 図書室、教室はもちろん、第2ビル内は禁煙。

A
1
1 2 3 4

《生活上の注意》

*以下は、ウィリアムス神学館で共同生活を営むための最低限のルールである。神学生諸君の大人としての常識と良識が期待されている。

- (1) 浴槽は、原則として月、水、金に使用する。シャワーは随時使用することができる。
- (2) 毎朝朝食前に、食事当番以外は公の場（玄関、食堂、コモン・ルーム、階段、廊下、トイレ、構内）の掃除をすること。（掃き掃除、ふき掃除）。教室を常にきれいにすることを心がけること。
- (3) 主日、月曜日、国民の祝日（2月11日を除く）を除く毎日の朝食と土曜日の昼食（弁当）は、当番が用意する。
- (4) 1年生のみ、土曜日の夕食と主日の昼食は、実習教会で用意していただく。2・3年生は、主日の昼食を実習教会で用意していただく。
- (5) 門限は午後11時とする。教会実習で門限に遅れる場合には、指導司祭にその旨を神学館まで連絡していただくこと。
- (6) 公の場には、原則として私物を置いたままにしない。いつも整理整頓に心を配ること。
- (7) 水道光熱に関して、無駄な使用は厳に慎むこと。電気はまめに消すこと。神学館運営経費の多くが、
全国の教会や信徒の皆さんから献げられた献金で成り立っていることを覚えて欲しい。
- (8) 教授が休講その他授業に関する変更を指示した時は、館長・主事及び聴講生にその旨を伝え、ニコルス館ホワイト・ボードの休講欄に記入する。またそれに伴う昼食の要不要を確認し、食事係に連絡する。

- (9) 学生会は、自主的運営を原則とするが、決定事項は必ず館長・主事にも伝えること。また必要ある事柄（公のもの、対外的なもの）は、予め主事または館長に相談すること。
- (10) 学生の役割分担の中に、保健衛生と営繕係を1名決めること。保健衛生係は薬箱を管理し、学生の健康状態に配慮する。営繕係は寮内営繕に関する学生側の窓口となる。
- (11) お客様が来られた時は、応対・接待を大切にすること。
- (12) 土地建物は教区のものであり、管理は教務所が行っている。関係を大切に。教区と交渉する必要があるときは、必ず館長・主事を通すこと。
- (13) 健康管理は自分で。
- (14) 火の取扱いには特に注意すること。冬期の灯油の取扱い、台所の火の始末には細心の注意を払うこと。
- (15) ニコルス館（寮）、教区センター側の4室および建物内、第2ビル（教室・図書室）は全館禁煙である。
- (16) 寮の全室に LAN が設備されている。使用は自由であるが有料サイトには絶対にアクセスしないこと。また個人用パソコンのウィルス対策ソフト等は必ず各自の責任でインストールすること。
- (17) コモン・ルームに設置されているパソコンは、神学生がレジユメなどの提出物を印刷する際に使用できる。
- (18) コピー機の使用に関して、授業用のものは無料であるが、私的コピーはコピー室備え付けのノートに記入すること（各学期末に清算）。コピー機の使用方法については、上級生に聞くこと。印刷機の使用については主事または館長の許可を取ること。
- (19) 神学生（聖職候補生）として神学館に学んでいるということは、一般の学生生活とは違う。自分の言動、服装、その他に神学生（聖職候補生）としての自覚と責任を持つこと。「自分の思いのままに」ではなく「キリストの十字架を背負う」とはどういうことかを、神学・礼拝・生活を通して真剣に考え続けて欲しい。
- (20) 学期中に外泊をする場合は、必ず所定の書式による「外泊届」を主事または館長に提出し、許可を得ること。
- (21) 寮の各部屋の鍵は各自で管理し、学年末には館長または主事に返却すること。
- (22) 出寮日以後、やむを得ない事情があつて寮に滞在する場合、主事に滞在願いを提出し、館長の承認を得ること。なお、1泊500円を神学館に納める。（卒業または修了・修業礼拝後、任地に赴くまでの3月中の滞在を除く。）
- (23) 寮室は原則として、毎年移動する。
- (24) その他、常に館長・主事と連絡を密にすること。又、集団生活での約束事を主体的に守り、学生相互のコミュニケーションを大切にして、明るい寮生活ができるように心を配ること。

《聴講制度》

1. 聴講制度について

2007年度より科目聴講の門戸を今まで以上に大きく開き、下記の条件のもとで、開講することにした。より多くの信徒の方が、この聴講制度を利用して教会の教えや神学についてより深く学び、それぞれの教会で自らの賜物を用いて奉仕の業に励み、また信仰を深められることを期待する。

2. 聴講の条件等

1. 聖公会信徒もしくは館長が特別に許可した方。
2. 所定の聴講料を納付した方。
3. 申し出があれば、学期末のテストを受けるか、レポートを提出し、所定の成績を修めた方には、科目履修証明書を発行する。
4. 定員によっては開講できないこともある。

3. 開講科目（今年度開講科目、授業内容、担当教員は学年別講義内容を参照のこと）

※募集定員：各5名

- *英書講読 *旧約入門 *新約入門 *旧約神学 *新約釈義 *教会史 *日本キリスト教史
- *教理学I *教理学II *聖公会論 *礼拝学I *礼拝学II *教会音楽 *ギリシャ語I
- *ギリシャ語II *ヘブライ語I
- *各学年の本科生が不在の場合、当該学年配当科目は不開講となる可能性がある

4. 聴講料

* 1科目 4,500円（年額）

5. 聴講手続き

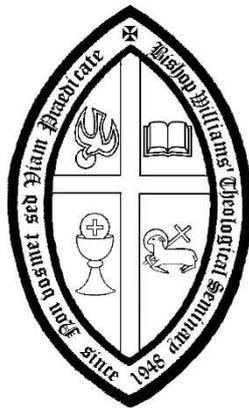
1. 聴講申込書に必要事項を記入の上、神学館宛 Eメールもしくはファクスまたは郵送で申込むこと。
2. 聴講料は最初の授業時に納付すること。
3. 申込締切 4月6日（土）必着
*できるだけ早めをお願いします。ㄨ切が迫っている時は電話でも結構です。後日申込書をご持参下さい。

6. 授業日程（試験週を含む）

- 1学期 4月8日（火）～ 6月28日（土）
- 2学期 9月3日（水）～ 12月6日（土）
- 3学期 1月7日（水）～ 2月28日（土）

7. その他

- *神学館の図書館を利用できます。
- *昼食が必要な方はお申し出下さい（実費）。



2025 年度ウイリアムス神学館要覧

2025 年 4 月 1 日発行

日本聖公会京都教区 ウイリアムス神学館

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上る桜鶴円町 380

Tel 075-431-5406 / E-mail : info@williams-theol.com

Fax 075-431-5445 / <https://www.williams-theol.com>
